

2014年度 前期		リフレクションペーパー						
学科名	生物環境化学科／経営ビジネス学科							
科目名	環境学入門							
科目区分	人間形成科目	単位数	2	開講時期	2年前期			
必修・選択の別	選択科目							
担当者	菅野 憲一							
授業の到達目標 (シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な環境汚染と地球温暖化を中心とする地球環境問題の現状を説明できる。 ・身近な問題から地球規模まで、全ての環境問題が現在の消費型社会経済システムと結びついていることを説明できる。 ・消費型から循環型へ社会経済システムの転換に必要な考え方を、環境倫理学や環境経済学の視点から説明できる。 							
日程と内容	4/8 導入講義 第1章 持続可能な社会に向けて 環境関連の検定や資格などについての説明。 4/15 第2章 地球を知る 2-1 地球の基礎知識 4/22 第2章 地球を知る 2-2 いま地球で起きていること 4/29 第3章 環境問題を知る 3-1 地球温暖化 5/13 第3章 環境問題を知る 3-2 エネルギー 5/21 第3章 環境問題を知る 3-3 生物多様性・自然共生社会 5/28 第3章 環境問題を知る 3-4 地球環境問題 6/3 第3章 環境問題を知る 3-5 循環型社会 6/10 第3章 環境問題を知る 3-6 地域環境問題 6/17 第3章 環境問題を知る 3-7 化学物質 6/24 第4章 持続可能な社会に向けたアプローチ 7/1 第5章 各主体の役割・活動 5-1 各主体の役割・活動 7/8 第5章 各主体の役割・活動 5-3 企業の環境への取組み 7/15 第5章 各主体の役割・活動 5-4 個人の行動、5-5 NGO、NPO 7/22 演習 7/29 定期試験							
成績評価基準	定期試験	60%	実技	0%	臨時試験	0%	部外評価	0%
	報告書・レポート	0%	プレゼンテーション	0%	課題	0%		
	演習	40%	計	100%				
授業到達目標の達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な環境汚染と地球温暖化を中心とする地球環境問題の現状を説明できる。：達成した。 ・身近な問題から地球規模まで、全ての環境問題が現在の消費型社会経済システムと結びついていることを説明できる。：達成した。 ・消費型から循環型へ社会経済システムの転換に必要な考え方を、環境倫理学や環境経済学の視点から説明できる。：達成した。 							
反省点	エコ検定対策にもなっているにもかかわらず、エコ検定受験者は少なかった。より多くの学生に検定、資格に興味をもってもらいたい。 高い合格率であり、合格者の平均点は90点台であることから、講義内容を十分に修得しているといえる。							
来年度の計画	今年度からテキストが大幅に改定されたため、より効果的に内容を修得できるように工夫したい。エコ検定は知名度の高い検定なので、興味をもってもらえるよう工夫したい。							
授業評価アンケートに対するコメント	総合評価の平均は8.6であった。次回はより多くの受講者にエコ検定にチャレンジしてもらいたいと思います。							
履修登録者数	134名	定期試験 受験者数	125名	合格者数	122名	合格率	98%	